

FOR THE CONFERENCE ON BETWEEN JAPAN - CHINESE EASTERN RAILWAY THROUGH TRAFFIC - CHINA AND - PEKING-MUKDEN LINE. Keijo, 1st-9th May, 1916.

京城日報

國際聯絡鐵道會議

委員の入京を迎ふ

日支、東清、京奉聯絡會議は、五月一日より京城に開催せられ、東清鐵道、京奉鐵道並に我が鐵道院、南滿洲鐵道及び朝鮮鐵道代表者一堂に相會じ、東洋に於て最も緊密なる國際關係に在る、是等鐵道の提携聯絡に就て、協定する所あらむとす。

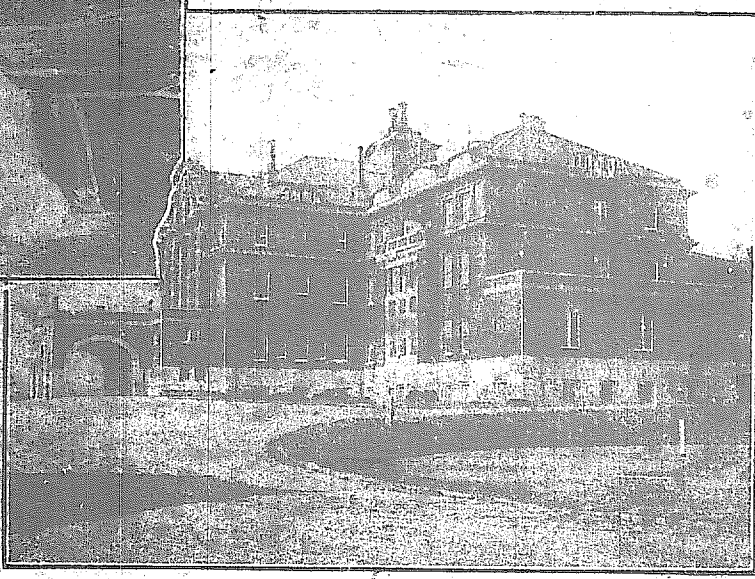
抑も日本帝國と、支那及び歐洲諸國との間の交通聯絡が、長足の進歩を爲せるは、極めて近年の事に屬し、數年前迄は、殆ど關涉する所なかりしと謂ふも不可ならず。然るに今日は、或は日滿聯絡、或は日滿露聯絡、或は西伯利經由國際交通、其他西伯利經由周遊、加奈太西伯利經由周遊、又は日支連絡交通の如き、孰れも關係鐵道汽船間、相互に接續の便を圖り、一箇の乘車船券、一葉の運送狀を以て、旅客及び貨物の交通を簡易迅速ならしむ。之を往時に比すれば、便否の差實に霄壤も當ならざる也。

殊に今回連絡會議の關係鐵道たる日支東清京奉諸線は、地理上經濟上より、一大國際鐵道系を成じ、相依賴し相連絡せざるも能はざる關係に在り。當に歐亞聯絡の重要幹線たるのみならず、又世界交通の大道たり。就中此の朝鮮を經由する歐亞聯絡通路は、安全迅速低廉の三要素に於て最も經濟的なる通路にして、歐洲戰亂の終局し、平和回復の上は、將來一層重要な使命を荷ふべき幹線鐵道なり。恰かも今日は等鐵道の代表者が、膝を交へて懇談的に連絡會議を開かむとするは頗る機宜に適したる盛舉にして、之によりて交通機關の國際的協力が、一段の緊密を加ふるに至るべきを信ず。

茲に聯絡會議の開催に臨み、各鐵道を代表せる當局の來京に對し、衷心歡迎の意を表せんことを欲す。朝鮮の春今正に爛に、各位を迎ふるには最も其時を得たるを欣ぶ。

國際連絡會議の由來

南滿洲鐵道會社は東清鐵道と旅客聯絡の必要を認め明治四十一年七月廿日に於て會議せられ日本鐵道院と外國鐵道との國際連絡會議の嚆矢にして聯絡會議の嚆矢にして



日支、東清、京奉聯絡會議は、六月十日(廿二)に於て第一回に於て支那側代表者一堂に相會じ、東洋に於て最も緊密なる國際關係に在る、是等鐵道の提携聯絡に就て、協定する所あらむとす。

聯絡會議委員
五月一日より京城に於て開催せられ、日支、東清、京奉聯絡會議の出発者委員氏名左の如し

鐵道院
大園三郎 局長
木下 三郎 副局長
同旅客主任 三上 眞吾
同鐵道主任 青木 治郎
朝鮮鐵道局 大屋 健平
局長 三本 武雄
支那國有鐵道 庄司 健五郎
支那國有鐵道 同旅客主任 三上 眞吾
同鐵道主任 青木 治郎
支那國有鐵道 同旅客主任 三上 眞吾
同鐵道主任 青木 治郎

東清鐵道
本部長 長谷川 清
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄

支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄

支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄

支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄

支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄

支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄
支那局長 三本 武雄



スト系を除く大多數の米國新聞論調は我が要求
 として有理なりとし紐着オールドの如きも幾日の非難的態度を
 して二十八日の社説にては上院移民委員會にては移民法案中より日本
 の對する制限を削除する事に決する由を報せると同時に加州知事及び
 の政事家を攻撃し日本に對する理由なき侮辱を除かんとする旨を提
 (紐着電報)

[illegible]

獨逸國大使は獨逸大本營に親節を往訪して何事か商議する
 最も注目する事實なり (倫敦電報)

〇 塔將軍土軍に降伏す

數公報に曰く、ボクミアに於て苦戰中なりシタウンセント
 將軍は、土軍古に降伏したり (組電報)

電報料前金	仲買人賈利銀金立替	別途預金	定期預金	貸付金	銀行當座預金	所有各價證券	營業什器	建築費
貳貳	貳貳	四〇〇〇	四〇〇〇	貳貳	貳貳	貳貳	貳貳	貳貳
九四	九四	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
參六	參六	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
八〇	八〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

○**黃興渡日**
 黃興は夫人子息同伴者
 宮内次官石原龍三氏は隨員を隨
 日夜釜山發歸時列車に便乗し一
 〇

前期繰起金	七十七萬六千七百六十九圓
合計	五十五萬八千六百六十九圓
法定積立金	五十五萬八千六百六十九圓
別途準備積立金	五十五萬八千六百六十九圓
所有物償却積立金	五十五萬八千六百六十九圓
役員賞與金	四十七萬六千七百六十九圓
株主配當金(年次割)	四十七萬六千七百六十九圓
後期繰起金	七十五萬八千六百六十九圓

收來電に據れば英國駐露公使ラッホ
氏は地中海に於て水雷に觸れ沈没
し、同官フレンチルの將以下、計
數救助せられたるも百二十四名は行衛
明とせられ、其電報

田所少將一行 三十日
九時二十分發、列車にて佐世保海軍
工廠正金銀行頭取井上紳之助氏、
日登山、山麓時刻車に便乗し、一日
六時五十分南大門驛著入京の筈

取掃役	松尾鶴
取掃役	奥田貞次
前記ノ各項調査ヲ遠ク其正確ナルトテ保證致候也	
監査役	森常
監査役	立石哲
監査役	大石哲

●**笠置仁川入港**
 附載補生報云、笠置は三十日、吉備其他各地御視察ありたる
 三十一日午前八時四十分東京、御
 車にて御歸京成りたり（特電）

●**東洋拓殖會社**に於ては既報の
 過渡米第六回駐在民の收容中な
 昨今既に入派の概数を了した
 以て就年の通計各出張所管内に
 道廳郡縣等の技術官の募集を請

阪谷男爵一行

昨の途にある男爵阪谷芳郎氏一行
神合にて假泊し居たりけるナリ河里
れを以て午前十時より航行を初
午後五時に港ノ尾島沖に投錨せり

當處指針たらしめんとするもの
が今日より十日間に立り斷續報告の物
を開いたる其場所とは釜山、大邱、
聖彼得堡、松花江、庫倫、長興、

洋館番長小松原氏、船中開首は三十
午後九時、南大門を以て、館に挨拶
五月一日午後六時三十分、同館に挨拶
館の招待會に臨席し二月、出資額
家の途に上るべし

物としての陸地、稻栽培を奨励し、
宗教より精神上の諸説を聞き、
憲兵派遣所長より一紙の訓詁
社組織より、各組の証明を與
社組織の「移住」の「農事講習會」
版物を頒付したるに來會者は就

[illegible]

熊本醫學士 中谷益雄

クスリはホニ
シ

此外道整四十餘處
各地薬店にあり

ホニ
シ
の
道
薬

地山樂承、監查役ノ氏名住所
職洞參拾七番他趙鎮泰、在
設立ノ日ヨリ滿貳拾箇年
大正五年四月貳拾七日登記

生徒募集

校兵缺員あり入學を許す

京城地方

決して荒れる事

朝鮮郵船株式會社
第八回決算報告書
自大正四年十月一
至大正五年三月三十
日
借方之部
迄未清株金
壹、五〇〇、〇〇〇
圓、貳、八〇〇、七
百、零、七、九、二、

七〇〇〇〇〇〇 七次

御園紙白

御料、飛鳥
伊東胡蝶園

金	銀	文	府	算	合
庫	行	店	勘	未	計
代	勘	勘	定	勘	勘
用	定	定	定	定	定
有	定	定	定	定	定
價	壹	參	壹	參	參
銀	九	貳	參	貳	貳
券	七	四	四	八	八
九	〇	〇	五	九	九
四	〇	四	五	〇	〇
五	二	五	〇	〇	〇
〇	八	〇	〇	〇	〇

司幹吉二郎男

偏偏偏偏偏
偏偏偏偏偏
芳香比ハナカサ使ひ心ハナカサ

金積立	合立	期利金	期利金	合利金	期利金	期利金	期利金	期利金
壹五〇〇〇	九參參〇〇	七五五〇〇	壹七五〇〇	貳貳分	七五五〇〇	壹七五〇〇	壹七五〇〇	壹七五〇〇

素顔の美を

大正五年四月廿九日
 取締役社長 原田金之
 專務取締役 吉田秀之
 取締役 堀力之
 取締役 深尾隆之
 調査候處相違無之候也
 監查役 松崎文
 監查役 山口太三

宮内省御
肌理を細かに

狎滿了ノ處再選セリ
 タングステン
 及大マグネ
 鑛山機具専門
 坡南大門通五
 話一〇四番
 中根産

卷之六

芳心
使ひ
芳心



御園紙
伊東胡堂

決して
荒れ

消化と
害けし

仁丹

金
言
と
大
人
其
子
の
知
る
事
を
少
し
し
る

皮膚の
事なき

用紙を選び、香料を選び、製本に注意し、白粉は純無鉛の御園を用ひ、淡紅色の紙をも添へ、決して皮膚の荒れる憂ひなく、包装の代用ともなる紙白粉はこれなり。

伊東胡蝶園

御園紙白粉

壹冊 金十五圓

ひなき
地よく

お買物、御散歩、芝居見物、御宴會など、多人數の席へお出掛けの時、手早くお顔の穢れを拭き取り、容易く化粧崩を直すに一番使ひ心地のよい紙白粉はこれなり。

發賣元

丸見屋商店

(71)

[illegible]

五月一日より全道に施行さる

が多年苦心の結果、今般潮を發布したるものなり。其れ大に頗る完全なるもの也。衆に總監部は、同職を發給し、以て營業者に示すものとす。而して同規則の眞意を知る所を知らずは誤解者の言の爲に、是は誤解されて恐怖を來し居る者、又は妄を懷きつゝある者も無きにしもあらざる可しと聞く。當局亦經に見附ありて、前日各營業者を招いて説明する所ありたりと云ふ。然るに規則に關係ある營業者は、最早行つてゐる。之をば見るものあるを察し、特に條項を附したるもの如く、貨運敷の如き速に一地に集合するの方針なるべし之を要するに營業者は職業に安んじらるべき當局亦進歩せるものに對しては頗る嚴密なる事項の理由を論じ、其の不進歩の域を感じざるものに對しては、現在の狀態に於て俄に苦痛を感じせしめざる限度にて相當の取締を加ふる事となるべく、取締官廳をして、其の運用を適切に監視せむるの點に於て、當局者が最も苦心の存せし所少からざるを見る。

若

年十二月に起りしが、翌年二月に告終せられたる此の紛争は明和公と此の前は決まらず若し此の際藩公と之を脱却せむか、實に惡怒の併發する所如何なる樹事を惹起せるかを測る可かり、或は臣下の紛争を憚かりて累代例行之聖典を廢止せむか、君威忽ち地に墜ちて亦收斂すべきに至らむとす。實に治癒は時に至らずとも、能く大局僅かに十九なりとし雖も、

意と多大の努力とを要すべし。
斯る進歩したる、善良なる規則

眞意まこといの存ぞんする處ところを考量そうかうし、以もつては、
總體そうたいなる進歩しんぷに盡つくさざる可べら
は、鮮あざ關係かんけい者もの當然たうぜんの急務きふなるべ



四月十九日午後、ヨリバコに於て公園音楽會
 カ、エトバコに於て第二回音楽會を催す大々
 屋敷古木の密に懸て集り來て、佛足燈を
 十八間、省廿一石、大陽が皮肉を驚いと、木
 に附れた菊の如し
 櫻 櫻

供ずる所にして、同氏の學術茲に費せる金額は今日までに數十

大坂たより

上りて、今回我邦に来遊せり。口角色を著し給へ櫻散ら
るべしに、數日間晤し同氏の嘆賞致し候(未差)

下駄の轡に飛はし給へ花散
醉茶屋標にて暮れて馬子の唄
外に花見や香に匂ふ
春れて山の水聲幽なり
馬上危と易き公子花に遠く
客や水と共まき花の下

苦女
喜久
長城
九分
屋城
分城
屋城
分城

加、其上無登録の機數も少なか
減機せずば、益々織物市價を低

しめんとて組合員額を増む、や
遠山の花は霞みて四手翳
又工賃低減、職工難の聲を聞ん
九分
用染料多量生産せられ、染料價
四割つて空飛めたり花曇
熟著の心離れて花に酔む
喜虎耳
平均一割安、薬
静軒
移住五年今年櫻の盛なり
天

發行所 會食城日報社
 本埠通二丁目
 發行所 會食城日報社
 本埠通二丁目
 發行所 會食城日報社
 本埠通二丁目

儀を繕ふごとく橋上を徒歩したるに、公に隨伴せる老臣某は心算かに公の態度を嘲り、身には緋縷羽織を着し、騎馬にて搦みと打ち渡りたりといふ。以て一藩老臣の公に對する態度の一斑を知る可し。

放浪漫記

(三月十八日ヨロブヲ依て)

大谷 光瑞

全般にヒマラヤの遊獵地に比すれば
突如は下位に在れども、ボンペーよりヒマラヤに至るには二月半を要すと雖も此の附近に至るは一曰猶ほ餘りあり、而も海風の爲に高度の低きにも拘はらず温度亦低しの故にボン

湖王宮の如き美觀なり、附近猛虎頗る多く市内に王宮の養へる虎園あり猛虎十頭を養へり。翌日アグラに至る此地は昨年曾遊の地、今回はフハラバングリに至らず小生の觀察せる、スナプ大王の陵墓タルシカンに至れり。三月五日夜ウヤに至り佛僧伽那の墓塔に拜す、七日バナナに至り同地に於ける考古部長スナプ博士の案内により無常の墓塔及び其の祖父自王主の故宮の遺跡を見る、スナプ博士は皆て我邦に在りしことあり、小生の知人にして説明能く懇切を極め深く同氏に感謝す、同氏の云ふ所によれば都巴の國虛盡くベルシャのパチボクに同じ宮殿の偉地等相同じ唯地味温に

の草薺戰爭に馴れて一寸急には驚かぬに因てと、曹ふよりは馴れぬに因てと、
○雨後の節の如き化學工業の小會社一朝時局治り歐洲生産力復活し來らば果して如何、慘憺たるものなきを保せず調子に乗る過ぎては駄目○社債の發行良好、七八錢のもの額面以上二三圓を値へたるも昨今金利低落と共に一流會社は増資により又は低利に借入へ高利社債を償還せんとする傾向あり、宇治電の二四八朱は来る七月全部現金償還に決し、大阪商船、倉敷新、合同紡、神戸電鐵大阪鐵工所等則期を見漸次高利債を整理せんとかす、今額面以上のプレミヤを抑ひたる高利債を買ふも直に額面償還をうけては飛んだ損亡、投資家の低利債に逃がんとするも一理あるべし

前千帆筆

總長 本邦

東京 牛車
田 綱 島

早稲田大學出版部

電話 番三 七
話 四二二

大隈伯名譽學長 高田博士指導經營卅餘年

第一義錄の講 大特典提供 人學の最好機

規 則 見 本
書 則 書 本

込 申 次 第
送 呈

中
學
講
義

岡
美
講
義

報 來 日 報

朝鮮彙報 大正五年五月一日 (定價 下五錢 郵稅 銀五厘)

●口繪 (雜誌の總督府專門學校 等五湖の櫻花 湖南綠茶山江の風景)

各道長官に對する寺內總督訓示

總督府立專門學校綱領

經國大典及其後の法典 淺見萬等法院判事

英國通信事業の概況(下) 矢野遞信事務官

江原道農林畜產技術員會同席上に於ける講演

中村總督府技師

爲行者事續 三月中の朝鮮貿易 二月中東京に於ける朝鮮米概況 大阪對朝鮮貿易 大正四年米賣收高 大小麥優良品種普及の狀況及其の栽培成績 大正三年度地方農經營人工造林事業成績 大正四年桑田反歩 大正四年優良家蠶繭の販賣狀況 遞信事業概況 三月中の鐵道運輸 河川調達の狀況 タングステンとモリブデレ 朝鮮產畜推動物目錄 公證事務に就て 路上略疾検査 大正四年中に於ける害獸特にヌクテの被害及驅除 白蟻類挿穂の作成方法 指紋に就て 慶尙北道及忠清南北道に於ける棉作狀況 慶尙北道方言 外國事情 地方通信雜報 質疑應答 叙任及辭令 統計 法令及通牒 判決例

朝鮮語の研究 新庄通譯官

投稿を歡迎す 原稿締切期限每月十日

販賣店 東京神田區松倉、朝鮮各地の書店に販賣す

廣告料 一頁十圓 取扱店 京城 ウツボヤ書籍店

天

[illegible]

我飛行界に多大の刺激を與へたり
氏の偉業とする處の本の著述し(ハロウ)を演じた
る如き、其の巧かな人間傑と服せし。又
早直御座(早)と云ふ快走せしむるの事實は今後記録の上に
登るべし。而かも是等の新聞を包容する英和辭書は固り我
が大規模な英和辭典あるのみ。更に本辭典は新聞の豐富なる上に際際し他の
辭書に比して傑出したる感當に英和辭書の類なるを失はば


[illegible]

特低價
 漢魏より元明に臻る迄の大家名門の書を一日の下に採擇したる古書珍籍なり、書道の熱心なる諸君には机上に缺くべからざる寶典なり。
 本書購入者先加藤清正傳、彰義隊戰史、御望の方等冊呈す。次第無代炫呈す。
無代進呈
 著書目録あり
 ●●●●●
木書二卷正書學書道の燈明臺!!!
發行所 東京市京橋區南傳馬町壹丁目番寄地
 振替口座 東京二二三五七番
目黒分店



新案特許三六二九八號 ▲六月十五日迄 特價六十四錢 替穂金八錢
 京城日報社代理部

何人でも一度御試飲あれば
 必ず……一生涯御常用になるは
 美味^{びみ} 滋養^{じよう} 蜂^{はち} 印^{いん} 香^{かう} 竄^{じうし} 葡^{かう} 萄^{たん} 酒^{しゆ}
 凡そ
 常用者の忘るべからざる欣快は
 毎朝の一杯は……精神を爽にし元氣を増す
 毎晩の一杯は……疲勞を慰め睡眠を助く
 の生命と眞價なり——
 東京日本橋本町
 近藤利兵衛
 斯くしてますます健康の人となる!!



山紫水明の地であるがう
 ちの生れた處でありますから
 何物かに心を喰はるゝ
 矢張り何處やら落付き
 居るかの如うな心持
 を爲し居る

美なる濃艶なる山水はもう其れ幼い頭を育てた朝鮮の山川があまり荒涼であつたからでせう其處へ行く内地です

五月節 大蛇強大賣出
 新龍宮
 電話三三二一
 三和館前
 三見堂

品

電話一三六七番
振替京城

國大各都クローブキン將軍原看

滿蒙處分論

京城目黒代官部部

千生瓢

(199) 須藤南翠作

瓢箪は、常に流離の世に漂ひ、人々の心を惹きつける。その姿は、静寂の中に、一種の生命力を放ち出している。須藤南翠氏の「千生瓢」は、この瓢箪の生涯を描いた傑作である。瓢箪の一生は、人間の一生と重なり、苦難と希望の連続である。作者は、この瓢箪を通して、人生の真諦を語っている。



瓢箪の生涯は、人間の生涯と重なり、苦難と希望の連続である。作者は、この瓢箪を通して、人生の真諦を語っている。瓢箪は、常に流離の世に漂ひ、人々の心を惹きつける。その姿は、静寂の中に、一種の生命力を放ち出している。

瓢箪の生涯は、人間の生涯と重なり、苦難と希望の連続である。作者は、この瓢箪を通して、人生の真諦を語っている。瓢箪は、常に流離の世に漂ひ、人々の心を惹きつける。その姿は、静寂の中に、一種の生命力を放ち出している。

瓢箪の生涯は、人間の生涯と重なり、苦難と希望の連続である。作者は、この瓢箪を通して、人生の真諦を語っている。瓢箪は、常に流離の世に漂ひ、人々の心を惹きつける。その姿は、静寂の中に、一種の生命力を放ち出している。

瓢箪の生涯は、人間の生涯と重なり、苦難と希望の連続である。作者は、この瓢箪を通して、人生の真諦を語っている。瓢箪は、常に流離の世に漂ひ、人々の心を惹きつける。その姿は、静寂の中に、一種の生命力を放ち出している。

酒清良醇双無
衛生無害
造吟社合名有限
元賣發鮮朝
店支城京藤首

醫化薬理器式
仁川本町
北島薬店
電話七六一番

富の道
山縣五十雄氏 村上唯吉氏合著
一冊の代價は僅に十五銭送料は二銭雑誌一冊の値段です

金光教
善積順藏
教友信徒總代

新原鍋屋
大阪府大阪市
電話二〇六番

動物の友
動物の友は、人間の友である。動物の友は、人間の友である。動物の友は、人間の友である。

金光教
善積順藏
教友信徒總代

大阪商船
大阪商船
大阪商船

大田屋
大田屋
大田屋

金光教
善積順藏
教友信徒總代

大田屋
大田屋
大田屋

大田屋
大田屋
大田屋